平成２８年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成２８年度調査）の調査票案について

○ 夜間の看護要員配置における要件等の見直しの影響及び医療従事者の負担軽減にも資するチーム医療の実施状況調査　（右下頁）
・調査概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３頁
・施設票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ５頁
・医師票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １７頁
・看護師長票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２２頁
・薬剤部責任者票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３０頁
・病棟薬剤師票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３４頁
・依頼状 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３８頁

○ かかりつけ医・かかりつけ歯科医に関する評価等の影響及び紹介状なしの大病院受診時の定額負担の導入の実施状況調査
・調査概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ３９頁
・かかりつけ医票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ４１頁
・小児科票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ５０頁
・大病院票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ５５頁
・選定療養票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ６１頁
・かかりつけ歯科医機能票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ６７頁
・歯科患者票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ７７頁
・依頼状 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８０頁

○ 重症度や居住形態に応じた評価の影響調査等を含む在宅医療・訪問看護の実施状況調査
・調査概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８１頁
・在宅医療票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ８３頁
・訪問看護票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９２頁
・在宅歯科医療票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １００頁
・依頼状 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１１頁

○ 精神疾患患者の地域移行・地域生活支援の推進や適切な向精神薬の使用の推進等を含む精神医療の実施状況調査
・調査概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１２頁
・病院票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１４頁
・診療所票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２６頁
・患者票 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３２頁
・依頼状 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １３８頁

○　後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査　（右下頁）

・調査概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３９頁
・保険薬局票　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１４１頁
・診療所票　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５１頁
・病院票　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５９頁
・医師票　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１６５頁
・患者票　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７０頁
・依頼状　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７６頁

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 28 年度調査）

「夜間の看護要員配置における要件等の見直しの影響及び医療従事者の負担軽減にも資するチーム医療の実施状況調査」
調査の概要（案）

■ 調査目的

平成 28 年度診療報酬改定では、医療従事者の負担を軽減する観点から、医師事務作業補助者や看護補助者の配置に係る評価、特定集中治療室等における薬剤業務に対する評価、栄養サポートチームにおける歯科医師との連携に係る評価等について見直しが行われた。また、看護職員の月平均夜勤時間に係る要件等の見直しや夜間の看護体制の評価等が行われた。

本調査では、このような診療報酬改定の内容を踏まえ、その影響を検証するために、関連した加算等を算定している保険医療機関における診療体制やチーム医療の実施状況等について調査を行う。

＜調査のねらい＞

- 医療従事者の勤務状況（医師、薬剤師、看護職員、看護補助者）の把握
- 医療従事者の負担軽減のための施設としての取組内容やその効果の把握
- 看護職員の夜間の勤務状況（夜勤回数、夜勤時間等）の把握
- 夜間の看護職員の勤務負担軽減の取り組み状況やその効果の把握
- チーム医療の実施状況と効果の把握　　／等

■ 調査対象及び調査方法

○調査対象（案）

①施設調査

・ 1）全国の病院の中から無作為抽出した 750 施設。2）病院勤務医・看護職員の負担の軽減を要件とする診療報酬項目並びにチーム医療の推進に関する項目を届け出ている病院の中から無作為抽出した 500 施設程度。1）2）合わせて 1,250 施設程度。

②医師調査

・上記①の施設調査の対象施設に 3 年以上勤務する医師。1 施設当たり 4 名程度を調査対象とする。

③看護師長調査

・上記①の施設調査の対象施設の病棟看護師長。1 施設当たり 5 名程度を調査対象とする。
・内訳は特定入院料から 1 病棟、一般病棟から 2 病棟、療養病棟が 1 病棟、精神病棟が 1 病棟とするが、該当病棟がない場合は一般病棟の抽出数を増やすこととする。

④薬剤師調査

＜薬剤部責任者票＞

・上記①の施設調査の対象施設における薬剤部責任者 1 名を対象とする。

＜病棟薬剤師票＞

・上記①の施設調査の対象施設において、病棟薬剤師が配置されている病棟のうち、無作為に抽出した 4 病棟を対象とする。

・ICU 等の集中治療室等の病棟の中から 1 病棟、一般病棟の中から 1 病棟、療養または精神病棟の中から 1 病棟、集中治療室以外の特定入院料の病棟の中から 1 病棟とするが、該当病棟がない場合は一般病棟の抽出数を増やすこととする。

○調査方法（案）

・ 施設調査については、自記式調査票の郵送配布・回収とする。

・ 医師調査、看護師長調査、薬剤師調査については、施設調査の対象施設を通じて調査票を配布し、施設票と合わせて施設でとりまとめの上、調査事務局宛の専用返信封筒により郵送で回収する。

■ 調査項目

※調査票（案） 参照

■ 調査スケジュール（案）

ID	

（施設票）

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 28 年度調査）

夜間の看護要員配置における要件等の見直しの影響及び医療従事者の負担軽減にも資するチーム医療の実施状況調査　施設票（案）

※ この施設票は、医療機関の開設者・管理者の方に、貴施設におけるチーム医療の実施状況や、医療従事者の負担軽減に関する取組やその効果、今後の課題等についてお伺いするものです。

※ ご回答の際は、あてはまる番号を○（マル）で囲んでください。また、（　　）内には具体的な数値、用語等をご記入ください。（　　）内に数値を記入する設問で、該当なしは「０（ゼロ）」を、わからない場合は「－」をご記入ください。

※ 特に断りのない質問については、平成 28 年 10 月 31 日時点の状況についてご記入ください。

※ 「平成 27 年 10 月」と記載の質問については平成 27 年 10 月 31 日時点または平成 27 年 10 月 1 か月間の状況を、「平成 28 年 10 月」と記載の質問については平成 28 年 10 月 31 日時点または平成 28 年 10 月 1 か月間の状況をご記入ください。

１．貴施設の概要についてお伺いします。

①開設者 ※○は１つだけ	01. 国　02. 公立　03. 公的　04. 社会保険関係団体 05. 医療法人　06. 個人　07. その他の法人
②承認等の状況 ※あてはまる番号すべてに○	01. 高度救命救急センター　02. 救命救急センター 03. 災害拠点病院　04. へき地医療拠点病院 05. 総合周産期母子医療センター　06. 地域周産期母子医療センター 07. 小児救急医療拠点病院　08. 特定機能病院 09. 地域医療支援病院　10. 二次救急医療機関 11. 専門病院（主として悪性腫瘍、循環器疾患等の患者を入院させる保険医療機関であって高度かつ専門的な医療を行っているものとして地方厚生（支）局長に届け出たもの） 12. 上記のいずれも該当しない
③標榜診療科 ※あてはまる番号すべてに○	01. 内科　02. 皮膚科　03. 小児科　04. 精神科 05. 外科　06. 泌尿器科　07. 脳神経外科　08. 整形外科 09. 眼科　10. 産婦人科・産科　11. ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科　12. 放射線科 13. 麻酔科　14. 救急科　15. 歯科（歯科口腔外科等含む）
④DPC 対応状況　※○は１つだけ	01. DPC 対象病院・準備病院である 02. DPC 対象病院・準備病院ではない

⑤貴施設における、平成 27 年 10 月及び平成 28 年 10 月の**紹介率、逆紹介率**をご記入ください。

	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
1）紹介率[注1]	％	％
2）逆紹介率[注1]	％	％

注1.　紹介率：（紹介患者数＋救急患者数）÷ 初診の患者数×100
逆紹介率：逆紹介患者数÷初診の患者数×100
※初診の患者数、紹介患者数、逆紹介患者数、救急患者数の定義については初診料及び外来診療料に係る診療報酬上の定義に従ってください。一般病床が 200 床未満の病院の場合も地域医療支援病院で用いられる定義に従ってください。

⑥貴施設において届出を行っている**入院基本料**は何ですか。※あてはまる番号すべてに○

＜入院基本料＞

01. 一般病棟入院基本料→（01. ７対１　02. １０対１　03. １３対１　04. １５対１）
02. 療養病棟入院基本料→（01. ２０対１　02. ２５対１）
03. 結核病棟入院基本料→ 01. ７対１　02. １０対１　03. １３対１　04. １５対１　05. １８対１　06. ２０対１
04. 精神病棟入院基本料→ 01. １０対１　02. １３対１　03. １５対１　04. １８対１　05. ２０対１
05. その他の入院基本料→（01. ７対１　02. １０対１　03. それ以外）

⑦貴施設において届出を行っている**特定入院料等**として該当するものは何ですか。※あてはまる番号すべてに○

01. 救命救急入院料　02. 特定集中治療室管理料　03. ﾊｲｹｱﾕﾆｯﾄ入院医療管理料
04. 脳卒中ｹｱﾕﾆｯﾄ入院医療管理料　05. 小児特定集中治療室管理料　06. 新生児特定集中治療室管理料
07. 総合周産期特定集中治療室管理料　08. 新生児治療回復室入院医療管理料
09. 小児入院医療管理料　10. 回復期ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病棟入院料　11. 地域包括ｹｱ病棟入院料
12. 地域包括ｹｱ入院医療管理料　13. 特殊疾患病棟入院料　14. 緩和ｹｱ病棟入院料
15. 精神科救急入院料　16. 精神科急性期治療病棟入院料　17. 精神科救急・合併症入院料
18. 児童・思春期精神科入院医療管理料　19. 精神療養病棟入院料
20. 認知症治療病棟入院料　21. 地域移行機能強化病棟入院料　22. 短期滞在手術等基本料

⑧貴施設における、平成 27 年 10 月及び平成 28 年 10 月の許可病床数、稼働病床数、病床利用率、平均在院日数をご記入ください。「療養病床」には介護療養病床も含めてください。

	平成 27 年 10 月				平成 28 年 10 月			
	許　可 病床数	稼　働 病床数	病　床 利用率注 2 （小数点第 1 位まで）	平均在院 日数注 3 （小数点第 1 位まで）	許　可 病床数	稼　働 病床数	病　床 利用率注 2 （小数点第 1 位まで）	平均在院 日数注 3 （小数点第 1 位まで）
1）一般病床	床	床	%	日	床	床	%	日
2）療養病床	床	床			床	床		
3）精神病床	床	床			床	床		
4）結核病床	床	床			床	床		
5）感染症病床	床	床			床	床		
6）病院全体	床	床	%	日	床	床	%	日

注 2. 病床利用率：以下の式により算出し、小数点以下第 1 位まで（小数点以下第 2 位を切り捨て）ご記入ください。

$$病床利用率＝\frac{8月～10月の在院患者延べ数}{（月間日数×月末許可病床数）の8月～10月の合計}\times 100$$

注 3. 平均在院日数：以下の式により算出し、小数点以下第 1 位まで（小数点以下第 2 位を切り捨て）ご記入ください。

$$平均在院日数＝\frac{8月～10月の在院患者延べ日数}{（8月～10月の新入院患者数＋8月～10月の新退院患者数）\times 0.5}\times 100$$

⑨平成 27 年 10 月及び平成 28 年 10 月に、貴施設で従事している医療従事者等の常勤・非常勤（常勤換算）別の職員数をご記入ください。

	平成 27 年 10 月		平成 28 年 10 月	
	常勤	非常勤（常勤換算）注 4	常勤	非常勤（常勤換算）注 4
1）医師	人	人	人	人
（うち）外来業務のみを担当する医師			人	人
2）歯科医師	人	人	人	人
3）保健師・助産師・看護師	人	人	人	人
（うち）一般病棟勤務の看護師	人	人	人	人
4）准看護師	人	人	人	人
（うち）一般病棟勤務の准看護師	人	人	人	人
【再掲】看護職員（看護師・准看護師）のうち、短時間正職員制度利用者数	人	人	人	人
（うち）週 30 時間以上の者	人	人	人	人
【再掲】看護職員（看護師・准看護師）のうち、夜勤専従者数	人	人	人	人
5）看護補助者	人	人	人	人
6）歯科衛生士	人	人	人	人
7）薬剤師	人	人	人	人
【再掲】病棟専任（または担当）薬剤師注 5	人	人	人	人
8）臨床検査技師	人	人	人	人
9）管理栄養士	人	人	人	人
10）理学療法士	人	人	人	人
11）作業療法士	人	人	人	人
12）言語聴覚士	人	人	人	人
13）医師事務作業補助者	人	人	人	人
14）ＭＳＷ（社会福祉士等）	人	人	人	人
15）その他	人	人	人	人
16）合計	人	人	人	人
【再掲】⑨-1　非常勤の薬剤師の実人数（在籍者数）	（　　）人　※平成 28 年 10 月 31 日			

注 4. 非常勤職員の常勤換算の計算方法：貴施設の 1 週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数点第 1 位までででご記入ください。
例：1 週間の所定勤務時間が 40 時間の病院で、週 4 日（各日 5 時間）勤務の非常勤職員が 1 人いる場合
非常勤職員数（常勤換算）＝（5 時間×4 日×1 人）÷40 時間（週所定労働時間）=0.5 人

注 5. 診療報酬上の施設基準の届出の有無に関わらず、実態として病棟業務専任（または担当）の薬剤師数をご記入ください。

⑩平成 27 年 10 月、平成 28 年 10 月の各 1 か月間における貴施設の**入院延べ患者数、外来延べ患者数、分娩件数、全身麻酔による手術件数**について、それぞれ該当する人数または件数をご記入ください。

	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
(1) 入院延べ患者数注 6	人	人
1）一般病棟（特定入院料を除く）における入院延べ患者数	人	人
2）時間外・休日・深夜に入院した延べ患者数	人	人
3）救急搬送により緊急入院した延べ患者数	人	人
4）新入院患者数	人	人
5）退院患者数	人	人
(2) 外来延べ患者数	人	人
1）初診の外来患者数	人	人
2）再診の外来延べ患者数	人	人
3）緊急自動車等により搬送された延べ患者数	人	人
4）時間外・休日・深夜加算の算定件数	件	件
5）時間外選定療養費の徴収件数	件	件

	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
(3) 分娩件数	件	件
(4) 全身麻酔による手術件数	件	件

注 6. 入院延べ患者数：毎日 24 時現在の在院患者数（即日退院患者数を含む）を 31 日分合計した患者数。

２．各診療報酬項目の施設基準の届出状況及び算定件数等についてお伺いします。

①次の施設基準等について「**届出があるもの**」（平成 28 年 10 月末時点）の該当数字を〇で囲んでください。また、届出がある場合、「**届出時期**」（該当する方に〇）、平成 27 年 10 月及び平成 28 年 10 月の各 1 か月間の**算定件数**をお答えください。

施設基準等	届出があるもの	届出時期		算定件数	
		平成 28 年 3 月以前	平成 28 年 4 月以降	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
1）総合入院体制加算１	1	1	2		
2）総合入院体制加算２	2	1	2		
3）総合入院体制加算３	3	1	2		
4）25 対 1 急性期看護補助体制加算（看護補助者５割以上）	4	1	2		
5）25 対 1 急性期看護補助体制加算（看護補助者５割未満）	5	1	2		
6）50 対 1 急性期看護補助体制加算	6	1	2		
7）75 対 1 急性期看護補助体制加算	7	1	2		
8）夜間 30 対 1 急性期看護補助体制加算	8	1	2		
9）夜間 50 対 1 急性期看護補助体制加算	9	1	2		
10）夜間 100 対 1 急性期看護補助体制加算	10	1	2		
11）夜間看護体制加算（急性期看護補助体制加算）	11	1	2		
12）夜間看護体制加算（看護補助加算）	12	1	2		
13）看護職員夜間 12 対 1 配置加算１	13	1	2		
14）看護職員夜間 12 対 1 配置加算２	14	1	2		
15）看護職員夜間 16 対 1 配置加算	15	1	2		
16）看護補助加算１	16	1	2		
17）看護補助加算２	17	1	2		
18）看護補助加算３	18	1	2		
19）夜間 75 対 1 看護補助加算	19	1	2		
20）看護職員配置加算	20	1	2		
21）看護補助者配置加算	21	1	2		
22）感染防止対策加算１・２	22	1	2	件	件
23）精神科リエゾンチーム加算	23	1	2	件	件
24）栄養サポートチーム加算	24	1	2	件	件
25）栄養サポートチーム加算　歯科医師連携加算					件
26）ハイリスク分娩管理加算	26	1	2	件	件
27）呼吸ケアチーム加算	27	1	2	件	件
28）病棟薬剤業務実施加算１	28	1	2	件	件
29）病棟薬剤業務実施加算２	29				件
30）救命救急入院料　注 3 加算	30	1	2	件	件
31）脳卒中ケアユニット入院医療管理料	31	1	2	件	件
32）小児特定集中治療室管理料	32	1	2	件	件
33）総合周産期特定集中治療室管理料	33	1	2	件	件
34）小児入院医療管理料１	34	1	2	件	件
35）小児入院医療管理料２	35	1	2	件	件

施設基準等	届出があるもの	届出時期		算定件数	
		平成 28 年 3 月以前	平成 28 年 4 月以降	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
36）移植後患者指導管理料	36	1	2	件	件
37）糖尿病透析予防指導管理料	37	1	2	件	件
38）院内トリアージ実施料	38	1	2	件	件
39）がん患者指導管理料１	39	1	2	件	件
40）がん患者指導管理料２	40	1	2	件	件
41）がん患者指導管理料３	41	1	2	件	件
42）画像診断管理加算１	42	1	2	件	件
43）画像診断管理加算２	43	1	2	件	件
44）手術における休日加算１	44	1	2	件	件
45）手術における時間外加算１	45	1	2	件	件
46）手術における深夜加算１	46	1	2	件	件
47）処置における休日加算１	47	1	2	件	件
48）処置における時間外加算１	48	1	2	件	件
49）処置における深夜加算１	49	1	2	件	件
50）認知症ケア加算１	50				件
51）薬剤管理指導料	51	1	2	件	件
52）薬剤総合評価調整加算					件
53）特定薬剤治療管理料				件	件
54）歯科医療機関連携加算（診療情報提供料Ｉの加算）				件	件
55）周術期口腔機能管理料 ※歯科診療報酬の算定件数を記入してください。				件	件
56）周術期口腔機能管理後手術加算				件	件
57）在宅患者訪問看護・指導料３				件	件
58）在宅患者訪問薬剤管理指導料				件	件
59）在宅患者訪問褥瘡管理指導料	59	1	2	件	件

②平成 27 年 10 月、平成 28 年 10 月末時点における、**医師事務作業補助体制加算**の届出状況としてあてはまるものに○をつけてください。※○はそれぞれ１つずつ

1）平成 27 年 10 月	00. 届出をしていない 01. 医師事務作業補助体制加算１　02. 医師事務作業補助体制加算２ →届出している場合の内訳 01. １００対１　02. ７５対１　03. ５０対１　04. ４０対１ 05. ３０対１　06. ２５対１　07. ２０対１　08. １５対１
2）平成 28 年 10 月	00. 届出をしていない→６ページの質問③へ 01. 医師事務作業補助体制加算１　02. 医師事務作業補助体制加算２ →届出している場合の内訳 01. １００対１　02. ７５対１　03. ５０対１　04. ４０対１ 05. ３０対１　06. ２５対１　07. ２０対１　08. １５対１

【届出をしている施設の方】 ②-1　現在の体制の届出時期はいつですか。	平成（　　）年（　　）月	
【届出をしている施設の方】 ②-2　医師事務作業補助者の配置人数（常勤換算）を配置場所別にご記入ください。 ※平成 28 年 10 月 31 日 ※複数か所で勤務している場合、勤務時間で人数を按分してそれぞれに記入してください。	1）外来	人
	2）病棟	人
	3）医局・事務室等	人
	4）合計	人

【届出をしている施設の方】

②-3　平成 27 年 10 月末時点及び平成 28 年 10 月末時点の、療養病棟、精神病棟に配置されている医師事務作業補助者の常勤・非常勤（常勤換算）別の職員数をご記入ください。

	平成 27 年 10 月		平成 28 年 10 月	
	常　勤	非常勤（常勤換算）	常　勤	非常勤（常勤換算）
1）療養病棟	人	人	人	人
2）精神病棟	人	人	人	人

【すべての施設の方】

③平成 28 年 10 月末時点において、**感染防止対策加算**の施設基準の届出をしていますか。※○は 1 つだけ

01. 感染防止対策加算 1 の届出をしている　　02. 感染防止対策加算 2 の届出をしている

03. 届出をしていない→**7 ページの質問③-4 へ**

【上記③で 01. または 02.（**届出をしている**）と回答した施設の方】

③-1　感染防止対策部門に配置されている職員数（実人数）をお答えください。※平成 28 年 10 月 31 日

	専　従	専　任
1）医師	人	人
2）看護師	人	人
3）薬剤師	人	人
4）臨床検査技師	人	人
5）その他（　　）	人	人
6）合計	人	人

【上記③で 01. または 02.（**届出をしている**）と回答した施設の方】

③-2　特定抗菌薬についての体制をお答えください。　※○は 1 つだけ

01. 届出制で行っている　　02. 許可制で行っている

（→感染防止対策加算 2 の届出施設の方は、この後、**7 ページの質問④**へお進みください。）

【上記③で 01.（**感染防止対策加算 1 の届出をしている**）と回答した施設の方】

③-3　平成 28 年 10 月末時点において、**感染防止対策地域連携加算**の届出をしていますか。　※○は 1 つだけ

01. 届出をしている　　02. 届出をしていない→**7 ページの質問④へ**

【上記③-3 で 01.（**感染防止対策地域連携加算の届出をしている**）と回答した施設の方】

③-3-1　感染防止対策地域連携加算の算定に当たり、具体的にどのような取組・効果がありましたか。具体的にお書きください。

（→この後、**7 ページの質問④**へお進みください。）

【上記③で 03.（感染防止対策加算の**届出をしていない**）と回答した施設の方】

③-4　**感染防止対策加算**の届出をしていない理由は何ですか。　※あてはまる番号すべてに○

01. 専門的な経験を有する人員の確保が難しいから
02. １週間に１回程度の定期的な巡回・指導を行うのに十分な人員の確保が難しいから
03. 感染防止対策加算の効果が不明であるから
04. 標準的な院内感染防止対策で十分であるから
05. その他（具体的に　　）

【すべての施設の方】
④貴施設の入院患者に対する口腔機能管理や栄養サポートチームの取組に参加している院外の歯科医師は何人いますか。

（　　）人

【すべての施設の方】
⑤貴施設では栄養サポートチームに歯科医師が参加していますか。　※○は１つだけ

01. 院内の歯科医師が参加している
02. 院外の地域の歯科医師が参加している
03. 栄養サポートチームはあるが、歯科医師は参加していない
04. 栄養サポートの取組は実施していない

【上記⑤で 01. または 02.（**歯科医師が参加**）と回答した施設の方】
⑤-1 歯科医師が栄養サポートチームに参加することでどのような効果がありましたか。具体的にお書きください。

【上記⑤で 03. または 04.（**歯科医師と連携していない**）と回答した施設の方】
⑤-2 歯科医師と連携していない理由は何ですか。　※あてはまる番号すべてに○

01. 栄養サポートチーム加算についてよく知らないから
02. 歯科医師連携加算についてよく知らないから
03. クリニカルパスに歯科との連携が組み込まれていないから
04. 歯科医師との情報共有が困難だから
05. 連携を行う際の歯科医師の受け入れ態勢が確保できていないから
06. 栄養サポートチームで実施する内容や効果が不明であるから
07. 対応できる歯科医療機関の情報がないから
08. その他（具体的に　　）

【すべての施設の方】
⑥平成 28 年 10 月末時点において、**処置・手術の休日・時間外・深夜加算１**の施設基準の届出をしていますか。
※○は１つだけ

01. 届出をしている　　02. 届出をしていない→８ページの質問３．①へ

【上記⑥で 01.（届出をしている）と回答した施設の方】
⑥-1　**処置・手術の休日・時間外・深夜加算１**はどのような対象で届出をしていますか。　※○は１つだけ

01. 病院全体で届出をしている→８ページの質問３．①へ
02. 病院全体での届出はしていない

【上記⑥-1 で 02.（病院全体での届出はしていない）と回答した施設の方】
⑥-1-1　**処置・手術の休日・時間外・深夜加算１**の届出診療科の状況をお答えください。

1）**処置・手術の休日・時間外・深夜加算１**の算定を行う診療科数	（　　）
2）病院の標榜診療科数	（　　）

【上記⑥-1 で 02.（病院全体での届出はしていない）と回答した施設の方】
⑥-1-2　病院全体での届出をしていない理由は何ですか。　※あてはまる番号すべてに○

01. 協力を得られない診療科があるから
02. 届出が不要と考えられる診療科があるから
03. 処置・手術の休日・時間外・深夜加算１の効果が不明であるから
04. その他（具体的に　　）

３．医師の勤務状況等についてお伺いします。

①貴施設の**医師の勤務形態**として該当するものをお選びください。※あてはまる番号すべてに○

01. 主治医制[注7]　02. 交代勤務制[注8]　03. その他（具体的に　　）

注 7. 主治医制：勤務が交代しても主治医が替わらない制度。
注 8. 交代勤務制：勤務の交代に伴い担当医が替わる制度。複数主治医制・チーム制（数名のチームにつき、１人の緊急呼び出し当番を置き、休日・時間外・深夜の対応を一元化しており、緊急呼び出し当番の翌日は休日としている）の場合も含む。

②平成 28 年 3 月 31 日以前と平成 28 年 4 月以降それぞれについて、貴施設で支給されている**診療実績にかかる手当**（※診療実績に応じて支払われる手当のみ）は何ですか。※あてはまる番号すべてに○

＊03. 時間外手当、04. 休日手当、05. 深夜手当については、手術・処置・内視鏡検査の実施件数に応じたものとする

1）平成 28 年 3 月 31 日以前	00. ない　01. 当直手当　02. ｵﾝｺｰﾙ手当　03. 時間外手当＊　04. 休日手当＊ 05. 深夜手当＊　06. 上記 03.～05.以外の時間外手当・休日手当・深夜手当 07. その他（具体的に　　）
2）平成 28 年 4 月以降	00. ない　01. 当直手当　02. ｵﾝｺｰﾙ手当　03. 時間外手当＊　04. 休日手当＊ 05. 深夜手当＊　06. 上記 03.～05.以外の時間外手当・休日手当・深夜手当 07. その他（具体的に　　）

③平成 28 年 4 月以降に、貴施設で増額した診療実績にかかる手当はありますか。※あてはまる番号すべてに○

＊03. 時間外手当、04. 休日手当、05. 深夜手当については、手術・処置・内視鏡検査の実施件数に応じたものとする

01. ある→増額したもの
（11. 当直手当　12. ｵﾝｺｰﾙ手当　13. 時間外手当＊　14. 休日手当＊　15. 深夜手当＊
16. 上記 13.～15.以外の時間外手当・休日手当・深夜手当　17. その他）
02. ない

④貴施設における平成 27 年 10 月、平成 28 年 10 月の**医師**１人あたりの**平均勤務時間**（１か月間）、１人あたりの**平均当直回数**（１か月間）、**連続当直を行った医師数**をご記入ください。※小数点以下第 2 位を切り捨てし、小数点以下第 1 位まで

常勤の医師	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
1）（実績）1 人あたり平均**勤務時間**[注9]／月	.　時間	.　時間
2）（実績）1 人あたりの平均**当直回数**／月	.　回	.　回
3）（実績）**連続当直を行った医師数**／月	人	人
非常勤の医師	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
4）（実績）1 人あたり平均**勤務時間**[注9]／月	.　時間	.　時間
5）（実績）1 人あたりの平均**当直回数**／月	.　回	.　回
6）（実績）**連続当直を行った医師数**／月	人	人

注 9. 勤務時間：所定労働時間の他、残業時間も含みます。

４．看護職員の勤務状況や看護補助者の配置等についてお伺いします。

①貴施設の**病棟看護職員**[注10]**の勤務形態**として主たる勤務形態（最も多くの看護職員に適用されている勤務形態）をお選びください。※○は１つだけ

01. ２交代制[注11]　02. 変則２交代制[注12]　03. ３交代制[注13]　04. 変則３交代制[注14]
05. 上記 01～04 の混合　06. 日勤のみ　07. 夜勤のみ
08. その他（具体的に　　）

注 10. 看護職員：保健師、助産師、看護師、准看護師を指します。
注 11. 2 交代制：日勤・夜勤が 12 時間ずつ等といった日勤・夜勤の各時間帯の勤務時間の長さが同じになる交代勤務。
注 12. 変則 2 交代制：日勤 8 時間、夜勤 16 時間等といった日勤・夜勤の各勤務帯の勤務時間の長さが異なる交代勤務。
注 13. 3 交代制：日勤・準夜勤・深夜勤が 8 時間ずつの交代勤務。
注 14. 変則 3 交代制：日勤 9 時間、準夜勤 7 時間、深夜勤が 8 時間等といった日勤・準夜勤・深夜勤の各勤務帯の勤務時間の長さが異なる交代勤務。

②**病棟勤務の看護職員**[注10]について、平成 27 年 10 月、平成 28 年 10 月 1 か月間の**夜勤時間数別の人数**をご記入ください。
※夜勤専従者は含めないでください。

	1）一般病棟、療養病棟（入院基本料１を除く）、結核病棟又は精神病棟の勤務者		2）左記 1）のうち、７対１及び１０対１病棟の勤務者		3）左記 1）のうち、７対１・１０対１病棟以外の病棟勤務者	
	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
～ 8 時間未満	人	人	人	人	人	人
8 時間以上～ 16 時間未満	人	人	人	人	人	人
16 時間以上～ 24 時間未満	人	人	人	人	人	人
24 時間以上～ 32 時間未満	人	人	人	人	人	人
32 時間以上～ 40 時間未満	人	人	人	人	人	人
40 時間以上～ 48 時間未満	人	人	人	人	人	人
48 時間以上～ 56 時間未満	人	人	人	人	人	人
56 時間以上～ 64 時間未満	人	人	人	人	人	人
64 時間以上～ 72 時間未満	人	人	人	人	人	人
72 時間以上～ 80 時間未満	人	人	人	人	人	人
80 時間以上～ 88 時間未満	人	人	人	人	人	人
88 時間以上～ 96 時間未満	人	人	人	人	人	人
96 時間以上～112 時間未満	人	人	人	人	人	人
112 時間以上～120 時間未満	人	人	人	人	人	人
120 時間以上～128 時間未満	人	人	人	人	人	人
128 時間以上～136 時間未満	人	人	人	人	人	人
136 時間以上～144 時間未満	人	人	人	人	人	人
144 時間以上～	人	人	人	人	人	人
合計人数	人	人	人	人	人	人

③貴施設では、平成 28 年 4 月～10 月までの間に、月平均夜勤時間 72 時間要件を満たせないため、「月平均夜勤時間超過減算」を算定している、あるいは算定していた病棟がありますか。該当する病棟がある場合は、「月平均夜勤時間超過減算」の算定期間をご記入ください。　※あてはまる番号すべてに○

01. ない→10 ページの質問④へ
02. 一般病棟入院基本料→**算定期間**：平成 28 年（　　）月～（　　）月
03. 療養病棟入院基本料２５対１→**算定期間**：平成 28 年（　　）月～（　　）月
04. 結核病棟入院基本料→**算定期間**：平成 28 年（　　）月～（　　）月
05. 精神病棟入院基本料→**算定期間**：平成 28 年（　　）月～（　　）月
06. 障害者施設等入院基本料→**算定期間**：平成 28 年（　　）月～（　　）月

【平成 28 年 4 月～10 月までの間に月平均夜勤時間超過減算の算定病棟がある・あった施設の方】
③-1　貴施設で、月平均夜勤時間 72 時間要件を満たせない、あるいは満たせなかった理由について該当するものをお選びください。※あてはまる番号すべてに○

01. 患者の重症度が高く、夜間の看護体制を充実する必要があったため
02. 看護職員の突然の退職・休職のため
03. 当該病棟配置の看護職員数がもともと少ないため
　→（01. 病床規模が小さいため　　02. 看護配置基準が低いため ）
04. その他（具体的に　　）

④貴施設では、平成 28 年 4 月以降、**夜勤時間特別入院基本料**を算定したことがありますか。　※○は１つだけ

01. ある→
- a）算定期間：（　　）か月
- b）医療勤務環境改善支援センターへの相談状況：
  （01. 既に相談した　02.今後相談する予定　03. 相談していない（相談予定なし））

02. ない

⑤貴施設では、看護補助者の配置はどのような状況でしょうか。　※○は１つだけ

01. 十分配置できている→質問５．①へ
02. 看護補助者の必要量を満たすだけ配置できていない

【上記⑤で「02.　看護補助者の必要量を満たすだけ配置できていない」と回答した施設の方】
⑤-1　看護補助者の必要量を満たすだけ看護補助者を配置できていないのはなぜですか。※あてはまる番号すべてに○

01. 募集をしても集まらないため
02. 人件費がないため
03. その他（具体的に　　）

５．医師の負担軽減策に関する取組状況等についてお伺いします。

①貴施設における医師の負担軽減策についてお伺いします。
（１）貴施設で医師の負担軽減策として実施されている取組に○をつけてください。※あてはまる番号すべてに○
（２）上記（１）で○をつけた取組について、実施した時期としてあてはまる番号に○をつけてください。
（３）上記（１）で○をつけた取組について、医師の負担軽減策の効果としてあてはまる番号に○をつけてください。
※（１）は１列の中であてはまる番号すべてに○、（２）と（３）は１行につきそれぞれ○は１つずつ

	（１）		（２）実施した時期			（３）負担軽減効果				
	実施されている取組に○		平成 28 年 3 月 31 日以前	平成 28 年 4 月～10 月 30 日	平成 28 年 10 月 31 日時点	効果がある	どちらかといえば効果がある	どちらともいえない	どちらかといえば効果がない	効果がない
（記入例）4）医師事務作業補助者の病棟への配置	④	→	1	②	3	1	②	3	4	5
1）医師業務の看護師・助産師との分担	1	→	1	2	3	1	2	3	4	5
2）医師業務の薬剤師との分担	2	→	1	2	3	1	2	3	4	5
3）医師業務のその他コメディカルとの分担	3	→	1	2	3	1	2	3	4	5
4）医師事務作業補助者の病棟への配置	4	→	1	2	3	1	2	3	4	5
5）医師事務作業補助者の外来への配置	5	→	1	2	3	1	2	3	4	5
6）常勤医師の増員	6	→	1	2	3	1	2	3	4	5
7）非常勤医師の増員	7	→	1	2	3	1	2	3	4	5
8）短時間正規雇用の医師の活用	8	→	1	2	3	1	2	3	4	5
9）外来診療時間の短縮	9	→	1	2	3	1	2	3	4	5
10）初診時選定療養費の導入	10	→	1	2	3	1	2	3	4	5
11）地域の他の医療機関との連携体制の構築・強化	11	→	1	2	3	1	2	3	4	5
12）医師における交代勤務制の導入	12	→	1	2	3	1	2	3	4	5

	（１）		（２）実施した時期			（３）負担軽減効果				
	実施されている取組に〇		平成 28 年 3 月 31 日以前	平成 28 年 4 月～10 月 30 日	平成 28 年 10 月 31 日時点	効果がある	どちらかといえば効果がある	どちらともいえない	どちらかといえば効果がない	効果がない
13）連続当直を行わない勤務シフトの導入	13	→	1	2	3	1	2	3	4	5
14）当直翌日の休日	14	→	1	2	3	1	2	3	4	5
15）当直翌日の業務内容に関する配慮	15	→	1	2	3	1	2	3	4	5
16）当直医師の増員	16	→	1	2	3	1	2	3	4	5
17）予定手術等の術者の当直に対する配慮	17	→	1	2	3	1	2	3	4	5
18）業務の量や内容を把握した上で、特定の個人に業務が集中しないような勤務体系	18	→	1	2	3	1	2	3	4	5
19）電子カルテとオーダリングシステムの活用	19	→	1	2	3	1	2	3	4	5
20）上記 19）以外の ICT を活用した業務省力化、効率化の取組	20	→	1	2	3	1	2	3	4	5

②上記①以外の取組以外で、貴施設で実施している勤務医負担軽減策で、効果のある取組があれば、具体的にお書きください。

③以下の診療報酬項目は、病院勤務医の負担の軽減及び処遇の改善を要件としています。これらの診療項目は、勤務医の負担軽減及び処遇改善に向けた取組として効果があると考えますか。

（１）貴施設で算定している項目に〇をつけてください。※あてはまる番号すべてに〇

（２）上記（１）で〇をつけた項目について、病院勤務医の負担の軽減及び処遇の改善に関する効果としてあてはまる番号に〇をつけてください。　※それぞれ〇は１つずつ

	（１）		（２）負担軽減及び処遇改善効果				
	算定している項目に〇		効果がある	どちらかといえば効果がある	どちらともいえない	どちらかといえば効果がない	効果がない
（記入例）2）医師事務作業補助体制加算	②	→	1	②	3	4	5
1）総合入院体制加算	1	→	1	2	3	4	5
2）医師事務作業補助体制加算	2	→	1	2	3	4	5
3）急性期看護補助体制加算	3	→	1	2	3	4	5
4）看護職員夜間配置加算	4		1	2	3	4	5
5）精神科リエゾンチーム加算	5	→	1	2	3	4	5
6）栄養サポートチーム加算	6	→	1	2	3	4	5
7）呼吸ケアチーム加算	7	→	1	2	3	4	5
8）病棟薬剤業務実施加算	8	→	1	2	3	4	5
9）移植後患者指導管理料	9	→	1	2	3	4	5
10）糖尿病透析予防指導管理料	10	→	1	2	3	4	5

	（１）		（２）負担軽減及び処遇改善効果				
	算定している項目に○		効果がある	どちらかといえば効果がある	どちらともいえない	どちらかといえば効果がない	効果がない
（記入例）2）医師事務作業補助体制加算	②	→	1	②	3	4	5
11）院内トリアージ実施料	11	→	1	2	3	4	5
12）救命救急入院料　注３	12	→	1	2	3	4	5
13）小児特定集中治療室管理料	13	→	1	2	3	4	5
14）総合周産期特定集中治療室管理料	14	→	1	2	3	4	5
15）小児入院医療管理料１または２	15	→	1	2	3	4	5
16）ハイリスク分娩管理加算	16	→	1	2	3	4	5
17）手術・処置の休日加算１、時間外加算１、深夜加算１	17	→	1	2	3	4	5
18）認知症ケア加算１	18	→	1	2	3	4	5

６．記録に係る負担軽減に関する取組状況等についてお伺いします。

①貴施設では、入院部門で電子カルテを導入していますか。　※○は１つだけ

01. 導入している
02. 導入していないが、導入を検討中
03. 導入していない
04. その他（具体的に　　）

②貴施設における、看護記録等の診療に関する記録の取扱いとしてあてはまるものに○をつけてください。※○は１つだけ

01. 診療録や看護記録等の診療に関する記録が合わせて１冊となっている（紙カルテの場合）、あるいは、診療録や看護記録等の診療に関する記録を同時表示・閲覧できるようになっている（電子カルテの場合）
02. 診療録や看護記録等の診療に関する記録が別冊となっている（紙カルテの場合）、あるいは、診療録や看護記録等の診療に関する記録が独立した画面でしか表示・閲覧できない（電子カルテの場合）
03. その他（具体的に　　）

③貴施設では、記録の省力化の取組としてどのようなことを実施していますか。　※あてはまる番号すべてに○

01. 各職種間で記載法や用語の統一化を進めた
02. 電子カルテにおいて、患者名、病名、ＡＤＬ等、各記録に共通する項目については自動的に反映される仕組みとした
03. その他（具体的に　　）

７．最後に、医師、看護職員等の医療従事者の負担軽減策、チーム医療の推進等についてご意見等ございましたらご自由にご記入ください。

施設票の質問は以上です。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

ID	

（医師票）

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 28 年度調査）

夜間の看護要員配置における要件等の見直しの影響及び医療従事者の負担軽減にも資するチーム医療の実施状況調査　医師票（案）

●特に指定がある場合を除いて、平成 28 年 10 月 31 日現在の状況についてお答えください。
●数値を記入する設問で、該当するものがない場合は「0」（ゼロ）をご記入ください。

1．あなたご自身のことについてお伺いします。

①性別	1. 男性　2. 女性	②年齢	（　　）歳
③医師経験年数	（　　）年（　　）か月	④貴施設での勤続年数	（　　）年（　　）か月
⑤主たる所属診療科 ※○は１つだけ	1. 内科系[注1]　2. 外科系[注2]　3. 小児科 4. 産婦人科・産科　5. 救急部門　6. 精神科		
⑥担当する主な病棟 ※○は１つだけ	1. 一般病棟　2. 療養病棟　3. 精神病棟 4. その他（具体的に　　）		
⑦役職等 ※○は１つだけ	1. 院長・副院長　2. 部長・副部長　3. 診療科の責任者（医長等） 4. その他の管理職医師（具体的に　　） 5. 非管理職の医師（6.は除く）　6. 後期研修医		
⑧勤務形態１	1. 常勤　2. 非常勤		
⑨勤務形態２	1. 主治医制[注3]　2. 交代勤務制[注4]　3. その他（具体的に　　）		
⑩平成 28 年 4 月以降の異動の有無	1. あり　2. なし		

注 1. 内科系：内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科、内分泌科、膠原病リウマチ科、血液内科、総合診療科、腎臓内科等
注 2. 外科系：外科、脳神経外科、心臓血管外科、消化器外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、整形外科、形成外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科等
注 3. 主治医制：勤務が交代しても主治医が替わらない制度。
注 4. 交代勤務制：勤務の交代に伴い担当医が替わる制度。複数主治医制・チーム制（数名のチームにつき、１人の緊急呼び出し当番を置き、休日・時間外・深夜の対応を一元化しており、緊急呼び出し当番の翌日は休日としている）の場合も含む。

2．あなたの勤務状況等についてお伺いします。

①貴施設（この調査票を受けとった病院）における、**平成 27 年 10 月及び平成 28 年 10 月 1 か月間の**あなたの**診療時間、勤務時間、当直回数**及び**オンコール回数**についてご記入ください。

	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
1）１か月間の診療時間[注1]		約（　　）時間（　　）分
2）１か月間の勤務時間[注2]	約（　　）時間（　　）分	約（　　）時間（　　）分
3）１か月間の当直回数[注3]	（　　）回	（　　）回
4）上記 3）のうち連続当直回数	（　　）回	（　　）回
5）１か月間のオンコール担当回数	（　　）回	（　　）回
6）上記 5）のうち呼出で実際に病院に出勤した回数	（　　）回	（　　）回

注1. 診療時間：患者の診療、手術のために勤務した時間。
注2. 勤務時間：所定労働時間に残業時間を加えた時間。
注3. 当直回数：土曜日・日曜日の日直は１回として数えてください。なお、連続当直回数とは当直翌日に当直が入っている日数を指します。

②この調査票を受け取った病院以外での勤務がありますか。　※○は１つだけ

1. 他病院でも勤務している　　2. 他病院では勤務していない（→２ページの質問③へ）

【他病院でも勤務している方のみお答えください】
→ ②-1 この病院以外での、あなたの、平成 28 年 10 月 1 か月間の勤務時間、当直回数についてご記入ください。

1）１か月間の勤務時間	約（　　）時間（　　）分
2）１か月間の当直回数	（　　）回　うち、連続当直回数（　　）回

③１年前と比較してあなたの勤務状況はどのように変化しましたか。この病院での勤務状況について回答してください。
※○は各１つずつ

1）勤務時間	1. 長くなった	2. 変わらない	3. 短くなった
2）外来の勤務状況（診療時間内）	1. 改善した	2. 変わらない	3. 悪化した
3）救急外来の勤務状況（診療時間外）	1. 改善した	2. 変わらない	3. 悪化した
4）長時間連続勤務の回数	1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った
5）当直の回数	1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った
6）当直時の平均睡眠時間	1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った
7）オンコールの回数	1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った
8）当直翌日の勤務状況	1. 改善した	2. 変わらない	3. 悪化した
9）総合的にみた勤務状況	1. 改善した 3. 変わらない 5. 悪化した	2. どちらかというと改善した 4. どちらかというと悪化した 6. その他（具体的に　　）	

３．あなたの行っている業務とその負担感等についてお伺いします。

①貴診療科（あなたの所属する診療科）における医師の負担軽減策についてお伺いします。
（１）貴診療科で医師の負担軽減策として実施されている取組に○をつけてください。
（２）上記（１）で○をつけた取組について、実施した時期としてあてはまる番号に○をつけてください。
（３）上記（１）で○をつけた取組について、医師の負担軽減策の効果としてあてはまる番号に○をつけてください。
※（１）は１列の中であてはまる番号すべてに○、（２）と（３）は１行につきそれぞれ○は１つずつ

	（１）		（２）実施した時期			（３）負担軽減効果				
	○ 実施されている取組に		平成28年3月31日以前	平成28年4月～10月30日	平成28年10月31日時点	効果がある	どちらかといえば効果がある	どちらともいえない	どちらかといえば効果がない	効果がない
（記入例）4）当直翌日の業務容に関する配慮	④	→	1	②	3	1	②	3	4	5
1）術者の予定手術前の当直の免除	1	→	1	2	3	1	2	3	4	5
2）手術の第一助手の予定手術前の当直の免除	2	→	1	2	3	1	2	3	4	5
3）当直翌日を休日とする勤務体制	3	→	1	2	3	1	2	3	4	5
4）当直翌日の業務内容に関する配慮	4	→	1	2	3	1	2	3	4	5
5）連続当直を行わない勤務ｼﾌﾄの導入	5	→	1	2	3	1	2	3	4	5
6）当直担当医師の増員	6	→	1	2	3	1	2	3	4	5
7）交代勤務制[注1]の実施	7	→	1	2	3	1	2	3	4	5
8）業務の量や内容を把握した上で、特定の個人に業務が集中しないような勤務体系の導入	8	→	1	2	3	1	2	3	4	5
9）外来診療時間の短縮	9	→	1	2	3	1	2	3	4	5
10）医師事務作業補助者の配置・増員	10	→	1	2	3	1	2	3	4	5
11）薬剤師による処方提案等	11	→	1	2	3	1	2	3	4	5
12）ICU等の集中治療室等への薬剤師の配置	12	→	1	2	3	1	2	3	4	5
13）薬剤師による投薬に係る入院患者への説明	13	→	1	2	3	1	2	3	4	5
14）薬剤師による投薬に係る外来患者への問合せ対応や服薬指導	14	→	1	2	3	1	2	3	4	5
15）臨床検査技師による検査に係る患者への対応、検査方法・結果説明	15	→	1	2	3	1	2	3	4	5

注１．交代勤務制：夜勤明けを休みとするなど医師が交代で勤務することで長時間の連続勤務を軽減する制度。

②貴診療科におけるあなたの業務負担感と業務分担の状況等についてお伺いします。

（１）各業務の業務負担感について該当する番号をご記入ください。
（２）各業務の他職種との業務分担の取組状況について該当する番号に〇をつけてください。※それぞれ〇は１つ
（３）医師のみが実施している各業務（上記（２）で「3」に〇がついた場合）について、今後、他職種への分担をどのように考えていますか。該当する番号に〇をつけてください。※それぞれ〇は１つ

【選択肢】
1：負担が非常に小さい
2：負担が小さい
3：どちらともいえない
4：負担が大きい
5：負担が非常に大きい

9：実施していない

該当番号を記入

	（１）業務負担感	（２）分担取組状況			→	（３）他職種への期待			
		主に他職種が実施している	他職種の補助を受けている	医師のみが実施している	3と回答した業務について	他職種に実施してほしい	他職種に補助してほしい	現行のままでよい	何とも言えない
（記入例）3）留置針によるルート確保	4	1	2	(3)	→	1	(2)	3	4
1）採血		1	2	3	→	1	2	3	4
2）静脈注射		1	2	3	→	1	2	3	4
3）留置針によるルート確保		1	2	3	→	1	2	3	4
4）診断書、診療記録及び処方せんの記載		1	2	3	→	1	2	3	4
5）主治医意見書の記載		1	2	3	→	1	2	3	4
6）診察や検査等の予約ｵｰﾀﾞﾘﾝｸﾞｼｽﾃﾑ入力や電子カルテ入力		1	2	3	→	1	2	3	4
7）救急医療等における診療の優先順位の決定（トリアージの実施）		1	2	3	→	1	2	3	4
8）検査の手順や入院の説明		1	2	3	→	1	2	3	4
9）慢性疾患患者への療養生活等の説明		1	2	3	→	1	2	3	4
10）診察前の事前の面談による情報収集や補足的な説明		1	2	3	→	1	2	3	4
11）患者の退院に係る調整業務		1	2	3	→	1	2	3	4
12）患者に対する処方薬の説明		1	2	3	→	1	2	3	4
13）医薬品の副作用・効果の確認		1	2	3	→	1	2	3	4
14）患者に対する検査結果の説明		1	2	3	→	1	2	3	4

③上記②の業務の他に、あなたが負担に感じている業務で、医師以外の職員と役割分担ができる業務がありましたら、お書きください。

４．他職種との連携の状況やあなたのお考え等についてお伺いします。

①あなたが主に勤務する病棟では、薬剤師が病棟に配置されていますか。　※〇は１つだけ

1. 配置されている　　2. 配置されていない（→４ページの質問②へ）

①-1 配置されている場合の状況

	（１）病棟における薬剤師の関与の状況			（２）医師の負担軽減及び医療の質の向上への効果（薬剤師が関与している場合のみお答えください）				
	主に薬剤師が関与	時々薬剤師が関与	薬剤師は関与しない	とても効果がある	効果がある	どちらともいえない	あまり効果がない	効果がない
1）患者からの情報収集（投薬歴、持参薬など）	1	2	3	1	2	3	4	5
2）医師への処方や服薬計画等の提案	1	2	3	1	2	3	4	5
3）患者に対する処方薬の説明	1	2	3	1	2	3	4	5
4）医薬品の副作用・効果等の確認	1	2	3	1	2	3	4	5
5）退院時の薬剤情報管理指導	1	2	3	1	2	3	4	5

②平成 28 年 4 月以降、周術期口腔機能管理の必要性を感じ、歯科医師と連携していますか。※○は 1 つだけ

01. 院内の歯科医師と連携し、周術期口腔機能管理に関する診療情報提供を行っている
02. 院外の地域の歯科医師と連携し、周術期口腔機能管理に関する診療情報提供を行っている
03. 院内の歯科医師と連携して歯科治療の依頼などは行っているが、周術期口腔機能管理に関する情報提供は行っていない
04. 院外の歯科医師と連携して歯科治療の依頼などは行っているが、周術期口腔機能管理に関する情報提供は行っていない
05. 歯科医師と連携していないが、連携体制の整備は必要と考えている
06. 歯科医師と連携しておらず、特に必要性も感じていない

【上記②で院内又は院外の歯科医師と連携している（01 または 02 を回答）方にお伺いします】
②-1　歯科医師との連携の効果として期待していることは何ですか。※あてはまる番号すべてに○

01. 挿管時の歯に関するトラブルの予防
02. 患者の状態に応じた専門的な口腔衛生管理・口腔機能管理
03. 口腔内の感染源の除去（感染管理）
04. 咀嚼機能、摂食嚥下機能の評価
05. 術後の絶食期間の短縮
06. 化学療法、放射線療法等による口腔内不快症状への対応
07. 看護師等に対する、患者個別の口腔清掃・口腔衛生管理方法の指導や情報提供等
08. その他（具体的に　　）

【上記②で歯科医師と連携していない方にお伺いします】
②-2　歯科医師と連携していない理由は何ですか。　※あてはまる番号すべてに○

01. 周術期口腔機能管理料についてよく知らないから
02. 歯科医療機関連携加算についてよく知らないから
03. クリニカルパスに歯科との連携が組み込まれていないから
04. 歯科医師との情報共有が困難だから
05. これまでに歯科医師の受入れ実績がなく、歯科医師の受入れ態勢が確保できていないから
06. 周術期口腔機能管理で実施する内容や効果が不明であるから
07. 周術期口腔機能管理を実施できる歯科医療機関の情報がないから
08. その他（具体的に　　）

③平成 28 年 4 月以降、栄養サポートチームにおいて歯科医師と連携していますか。※○は 1 つだけ

01. 院内の歯科医師が参加し、栄養サポートチームによる取組を行っている
02. 院外の地域の歯科医師が参加し、栄養サポートチームによる取組を行っている
03. 歯科治療の依頼などは行っているが、栄養サポートチームに歯科医師は参加していない
04. 歯科医師と連携していないが、栄養サポートチームによる取組を行っている
05. 栄養サポートチームによる取組を行っていない

【上記③で院内又は院外の歯科医師と連携している（01 または 02 を回答）方にお伺いします】
③-1　歯科医師との連携の効果として期待していることは何ですか。　※あてはまる番号すべてに○

01. 患者の状態に応じた専門的な口腔衛生管理・口腔機能管理
02. 口腔内の感染源の除去（感染管理）
03. 咀嚼機能、摂食嚥下機能の評価
04. 看護師等に対する、患者個別の口腔清掃・口腔衛生管理方法の指導や情報提供等
05. その他（具体的に　　）

【上記③で歯科医師が参加していない方にお伺いします】
③-2　歯科医師と連携していない理由は何ですか。　※あてはまる番号すべてに○

01. 栄養サポートチーム加算についてよく知らないから
02. 栄養サポートチーム加算の歯科医師連携加算についてよく知らないから
03. クリニカルパスに歯科との連携が組み込まれていないから
04. 歯科医師との情報共有が困難だから
05. これまでに歯科医師の受入れ実績がなく、歯科医師の受入れ態勢が確保できていないから
06. 栄養サポートチームに参加できる歯科医療機関の情報がないから
07. 特に歯科医師との連携について必要性を感じないから
08. その他（具体的に　　）

5．あなたの勤務状況に関するご意見等をお伺いします。

①あなたの現在の勤務状況についてどのようにお考えですか。※最も近いものに○は 1 つだけ

1. 改善の必要性が高い　　2. 改善の必要性がある
3. 現状のままでよい　　4. その他（具体的に　　）

【上記①で「1. 改善の必要性が高い」「2. 改善の必要性がある」と回答した方】
①-1 勤務状況について「1. 改善の必要性が高い」または「2. 改善の必要性がある」と回答した最大の理由は何ですか。　※○は 1 つだけ

1. 医師の過重勤務により患者が不利益を被る可能性があるため
2. 業務を継続していけるか不安があるため
3. 過重勤務により身体的・精神的疾患を患う（患った）ため
4. 給与が業務量に比べて低いと感じるため
5. 育児休暇等のワークライフバランスがとれていないため
6. 特に問題はないが、勤務医負担軽減策を行うことで更に勤務状況の改善が見込めるため
7. その他（具体的に　　）

②どのような取組が病院で行われれば、医師の負担を軽減することができると思いますか。

質問は以上です。ご協力いただきましてありがとうございました。

ID	

（看護師長票）

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 28 年度調査）

夜間の看護要員配置における要件等の見直しの影響及び医療従事者の負担軽減にも資するチーム医療の実施状況調査　看護師長票（案）

●特に指定がある場合を除いて、平成 28 年 10 月 1 日現在の状況についてお答えください。
●数値を記入する設問で、該当するものがない場合は「0」（ゼロ）をご記入ください。

1．あなたが管理する病棟の概要についてお伺いします。

①病棟の主たる診療科　※あてはまる番号すべてに○

01. 内科系[注1]　02. 外科系[注2]　03. 小児科　04. 産婦人科・産科
05. 救急部門　06. 精神科

②診療報酬上の病棟種別　※○は 1 つだけ

＜入院基本料＞
01. 一般病棟入院基本料→（01. ７対１　02. １０対１　03. １３対１　04. １５対１）
02. 療養病棟入院基本料→（01. ２０対１　02. ２５対１）
03. 結核病棟入院基本料→ 01. ７対１　02. １０対１　03. １３対１　04. １５対１　05. １８対１　06. ２０対１
04. 精神病棟入院基本料→ 01. １０対１　02. １３対１　03. １５対１　04. １８対１　05. ２０対１
05. その他の入院基本料→（01. ７対１　02. １０対１　03. それ以外）
＜特定入院料＞
06. 地域包括ｹｱ病棟入院料
07. 回復期リハビリテーション病棟入院料
08. その他の特定入院料（具体的に　　）

③当該病棟の病床数	（　　）床	**④当該病棟の病床利用率**	（　　）%
⑤平成 28 年 10 月 1 か月間の新規入院患者数	（　　）人	**⑥当該病棟の平均在院日数[注3]**	（　.　）日
⑦月平均夜勤時間超過減算の有無（平成 28 年 4 月以降）　※○は 1 つだけ	01. あり　02. なし		

注 1. 内科系：内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科、内分泌科、膠原病リウマチ科、血液内科、総合診療科、腎臓内科等
注 2. 外科系：外科、脳神経外科、心臓血管外科、消化器外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、整形外科、形成外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科等
注 3. 平均在院日数：以下の式により算出し、小数点以下第 1 位まで（小数点以下第 2 位を切り捨て）ご記入ください。

$$平均在院日数＝\frac{8月～10月の在院患者延べ日数}{（8月～10月の新入院患者数＋8月～10月の新退院患者数）×0.5}×100$$

⑧看護補助加算
※○は 1 つだけ
※13 対 1、15 対 1、18 対 1、20 対 1 入院基本料を算定する病棟のみ

01. 看護補助加算 1　02. 看護補助加算 2　03. 看護補助加算 3
→ a）夜間 75 対 1 看護補助加算（30 点）（01. 届出あり　02. 届出なし）
b）夜間看護体制加算（150 点）（01. 届出あり　02. 届出なし）

04. 届出をしていない
→ a）届出の予定（01 予定あり　02 予定なし）
b）届出をしていない理由（※○はいくつでも）
（01 職員確保が困難　02 必要性がない　03 その他（　　））

※以下の質問⑨～⑫は一般病棟の方のみご回答ください。それ以外の病棟の方は 2 ページの2．①へお進みください。

⑨急性期看護補助体制加算 ※○は１つだけ ※7 対 1 又は 10 対 1 入院基本料を算定する病棟のみ	01．２５対１（看護補助者５割以上）　02．２５対１（看護補助者５割未満） 03．５０対１　04．７５対１ 05．届出をしていない → a）届出の予定（01 予定あり　02 予定なし） b）届出をしていない理由（※○はいくつでも） （01 職員確保が困難　02 必要性がない　03 その他（　　））
⑩夜間急性期看護補助体制加算 ※○は１つだけ ※急性期看護補助体制加算を算定する病棟のみ	01．３０対１　02．５０対１　03．１００対１ 04．届出をしていない → a）届出の予定（01 予定あり　02 予定なし） b）届出をしていない理由（※○はいくつでも） （01 職員確保が困難　02 必要性がない　03 その他（　　））
⑪夜間看護体制加算　※○は１つだけ	01．算定あり　02．算定なし
⑫看護職員夜間配置加算 ※○は１つだけ	01．１２対１の「１」　02．１２対１の「２」　03．１６対１ 04．なし → a）届出の予定（01 予定あり　02 予定なし） b）届出をしていない理由（※○はいくつでも） （01 職員確保が困難　02 必要性がない　03 その他（　　））

２．貴病棟における看護職員・看護補助者の勤務状況等についてお伺いします。

①貴病棟における看護職員[注1]の勤務形態 ※あてはまる番号すべてに○	01．２交代制[注2]　02．変則２交代制[注3]　03．３交代制[注4] 04．変則３交代制[注5]　05．上記 01～04 の混合　06．日勤のみ 07．夜勤のみ　08．その他（具体的に　　）

注 1．看護職員：看護師、保健師、助産師、准看護師を指します。
注 2．２交代制：日勤・夜勤が 12 時間ずつ等といった日勤・夜勤の各時間帯の勤務時間の長さが同じになる交代勤務。
注 3．変則２交代制：日勤 8 時間、夜勤 16 時間といった日勤・夜勤の各時間帯の勤務時間の長さが異なる交代勤務。
注 4．３交代制：日勤・準夜勤・深夜勤が 8 時間ずつの交代勤務。
注 5．変則３交代制：日勤 9 時間、準夜勤 7 時間、深夜勤 8 時間といった日勤・準夜勤・深夜勤の各時間帯の勤務時間の長さが異なる交代勤務。

②貴病棟に配置されている職員数（※夜勤専従者は除く）	平成 27 年 10 月		平成 28 年 10 月	
	常勤	非常勤（常勤換算[注6]）	常勤	非常勤（常勤換算[注6]）
1）看護師数	人	人	人	人
2）准看護師数	人	人	人	人
3）看護補助者数	人	人	人	人

③看護職員[注1]の勤務時間等（※夜勤専従者は除く）	平成 27 年 10 月		平成 28 年 10 月	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
1）1 人あたり平均勤務時間[注7]／月	時間	時間	時間	時間
2）1 人あたり平均夜勤時間[注8]／月	時間	時間	時間	時間
3）（最小値[注9]）夜勤時間／月	時間	時間	時間	時間
4）（最大値[注9]）夜勤時間／月	時間	時間	時間	時間

注 6．常勤換算：貴施設の 1 週間の所定勤務時間を基本として、下記のように常勤換算して小数第 1 位まで（第 2 位を切り捨て）ご記入ください。
例：1 週間の所定勤務時間が 40 時間の病院で、週 4 日（各日 5 時間）勤務の看護職員が 1 人いる場合：（4 日×5 時間×1 人）÷40 時間
注 7．平均勤務時間：実際に勤務した時間です。残業時間も含みます。
注 8．平均夜勤時間：延べ夜勤時間数÷夜勤従事者の合計数（※夜勤従事者=夜勤時間帯に病棟で勤務する時間÷夜勤時間帯に病院内（病棟＋病棟外）で勤務する時間）。なお、次の該当者は計算から除外してください。ａ）夜勤専従者（専ら夜勤時間帯に従事する者）、ｂ）7 対 1 入院基本料病棟及び 10 対 1 入院基本料の病棟の場合は月夜勤時間数が 16 時間未満及び短時間制職員で月夜勤時間数が 12 時間未満の者、ｃ）7 対 1 入院基本料病棟及び 10 対 1 入院基本料の病棟以外の病棟の場合は、月夜勤時間数が 8 時間未満の者。
注 9．（最小値）夜勤時間／月：貴病棟で 1 か月の夜勤時間が最も短かった看護職員の夜勤時間をご記入ください。夜勤に従事していない人は除いてください。（最大値）夜勤時間／月：貴病棟で 1 か月の夜勤時間が最も長かった看護職員の夜勤時間をご記入ください。

④貴病棟に配置されている看護職員の夜勤専従者数（実人数）	平成 27 年 10 月		平成 28 年 10 月	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
1）看護師数	人	人	人	人
2）准看護師数	人	人	人	人

⑤看護職員[注1]の夜勤専従者の勤務時間等	平成 27 年 10 月		平成 28 年 10 月	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
1）1 人あたり平均勤務時間[注7]／月	時間	時間	時間	時間
2）1 人あたり平均夜勤時間[注8]／月	時間	時間	時間	時間
3）（**最小値**[注10]）夜勤時間／月	時間	時間	時間	時間
4）（**最大値**[注10]）夜勤時間／月	時間	時間	時間	時間

注 10.（最小値）夜勤時間／月：貴病棟で 1 か月の夜勤時間が最も短かった看護職員の夜勤専従者の夜勤時間をご記入ください。
（最大値）夜勤時間／月：貴病棟で 1 か月の夜勤時間が最も長かった看護職員の夜勤専従者の夜勤時間をご記入ください。

⑥看護職員[注1] 1 人あたり**月平均夜勤回数**		平成 27 年 10 月		平成 28 年 10 月	
		常勤	非常勤	常勤	非常勤
２交代（変則２交代を含む）		回	回	回	回
３交代（変則３交代を含む）	1）準夜勤	回	回	回	回
	2）深夜勤	回	回	回	回
２交代（変則２交代を含む）と３交代（変則３交代を含む）の混合	1）２交代	回	回	回	回
	2）３交代	回	回	回	回

⑦平均夜勤体制（配置人数）		看護職員　準夜帯（　　）人　深夜帯（　　）人 看護補助者　準夜帯（　　）人　深夜帯（　　）人
⑧日勤における休憩時間[注11]		看護職員（　　）時間（　　）分　看護補助者（　　）時間（　　）分
⑨夜勤時間帯[注12]　※24 時間制で記入		（　　）時～（　　）時
⑩夜勤における休憩時間[注11]および仮眠時間	２交代（変則２交代を含む）の場合 ※休憩および仮眠時間をまとめて付与している場合は上段に回答。 ※どちらかのみ、またはそれぞれ付与の場合は下段に回答。	休憩・仮眠　（　　）時間（　　）分 休憩　（　　）時間（　　）分 仮眠　（　　）時間（　　）分
	３交代（変則３交代を含む）の場合 ※休憩時間のみ回答。	準夜勤：（　　）時間（　　）分 深夜勤：（　　）時間（　　）分

注 11. 休憩時間：1 回の勤務にあたり貴施設の所定勤務時間において規定されている休憩時間。
注 12. 夜勤時間帯：病院で任意に設定している 22 時～翌 5 時を含む連続する 16 時間。

⑪平成 28 年度診療報酬改定の結果、貴病棟における夜勤に関する状況は改定前と比較して、どのようになりましたか。
※○は 1 つだけ

1）夜勤時間の長さ	01. 長くなった	02. 変わらない	03. 短くなった
2）夜勤の回数	01. 増えた	02. 変わらない	03. 減った
3）夜勤時の受け持ち患者数	01. 増えた	02. 変わらない	03. 減った
4）夜勤時の繁忙度	01. 忙しくなった	02. 変わらない	03. 余裕ができた
5）夜勤をする者	01. 増えた	02. 変わらない	03. 減った
6）一部の者への夜勤の負担	01. 増えた	02. 変わらない	03. 減った
7）夜勤シフトの組み方	01. 改善した	02. 変わらない	03. 悪化した
8）夜勤の 72 時間要件	01. 満たしやすくなった	02. 変わらない	03. 満たしにくくなった

→次ページに続きます。

9）他部署との兼務	01. 増えた	02. 変わらない	03. 減った
10）短時間勤務者で夜勤時間帯に勤務する者	01. 増えた	02. 変わらない	03. 減った

⑫1 年前と比較して、貴病棟の看護職員の勤務状況はどのように変化しましたか。 ※○は１つだけ			
1）勤務時間	01. 長くなった	02. 変わらない	03. 短くなった
2）長時間連続勤務の状況	01. 長くなった	02. 変わらない	03. 短くなった
3）有給休暇の取得状況	01. 増えた	02. 変わらない	03. 減った
4）総合的にみた勤務状況	01. 改善した 03. 変わらない 05. 悪化した	02. どちらかというと改善した 04. どちらかというと悪化した 06. その他（　　）	

３．貴病棟における看護職員の負担軽減策の取組状況についてお伺いします。

①貴病棟における看護職員の負担軽減策についてお伺いします。
（１）貴病棟で看護職員の負担軽減策として実施している取組に○をつけてください。※あてはまる番号すべてに○
（２）上記（１）で○をつけた取組について、実施した時期としてあてはまる番号に○をつけてください。
※それぞれ○は１つずつ
（３）上記（１）で○をつけた取組について、看護職員の負担軽減策の効果としてあてはまる番号に○をつけてください。
※それぞれ○は１つずつ

	（１）		（２）実施した時期			（３）負担軽減効果				
	実施されている取組に○		平成 28 年 3 月 31 日以前	平成 28 年 4 月～10 月 30 日	平成 28 年 10 月 31 日時点	効果がある	どちらかといえば効果がある	どちらともいえない	どちらかといえば効果がない	効果がない
（記入例）4）夜勤専従者の雇用	④	→	1	②	3	1	②	3	4	5
１．看護職員の配置・勤務シフト等										
1）看護職員の増員	1	→	1	2	3	1	2	3	4	5
2）短時間勤務の看護職員の増員	2	→	1	2	3	1	2	3	4	5
3）夜勤時間帯の看護職員配置の増員	3	→	1	2	3	1	2	3	4	5
4）夜勤専従者の雇用	4	→	1	2	3	1	2	3	4	5
5）2 交代・3 交代制勤務の見直し（変則への移行を含む）	5	→	1	2	3	1	2	3	4	5
6）11 時間以上の勤務間隔の確保	6	→	1	2	3	1	2	3	4	5
7）夜勤後の暦日の休日の確保	7	→	1	2	3	1	2	3	4	5
8）夜勤の連続回数が 2 連続（2 回まで）の設定	8	→	1	2	3	1	2	3	4	5
9）月の夜勤回数の上限の設定	9	→	1	2	3	1	2	3	4	5
10）（2 交代勤務）夜勤時の仮眠時間を含む休憩時間の確保	10	→	1	2	3	1	2	3	4	5
11）（2 交代勤務）16 時間未満となる夜勤時間の設定	11	→	1	2	3	1	2	3	4	5
12）（3 交代勤務）日勤深夜、準夜日勤のシフトの回避	12	→	1	2	3	1	2	3	4	5
13）（3 交代勤務）正循環の交代周期の確保	13	→	1	2	3	1	2	3	4	5
14）早出や遅出などの看護ニーズに応じた勤務の導入・活用	14	→	1	2	3	1	2	3	4	5

	（1）		（2）実施した時期			（3）負担軽減効果				
	実施されている取組に○		平成28年3月31日以前	平成28年4月～10月30日	平成28年10月31日時点	効果がある	どちらかといえば効果がある	どちらともいえない	どちらかといえば効果がない	効果がない
（記入例）4）夜勤専従者の雇用	④	→	1	②	3	1	②	3	4	5
15）当直明けの勤務者に対する配慮	15	→	1	2	3	1	2	3	4	5
16）残業が発生しないような業務量の調整	16	→	1	2	3	1	2	3	4	5
17）夜間を含めた各部署の業務量を把握・調整するシステムの構築	17	→	1	2	3	1	2	3	4	5
18）夜間院内保育所の設置	18		1	2	3	1	2	3	4	5
19）勤務時間内の委員会※開催	19	→	1	2	3	1	2	3	4	5
20）メンタルヘルス対策の実施	20	→	1	2	3	1	2	3	4	5
21）電子カルテ又はオーダリングシステムの活用	21	→	1	2	3	1	2	3	4	5
２．看護補助者の配置等										
22）看護補助者との業務分担	22	→	1	2	3	1	2	3	4	5
23）看護補助者の増員	23	→	1	2	3	1	2	3	4	5
24）早出や遅出の看護補助者の配置	24	→	1	2	3	1	2	3	4	5
25）夜勤時間帯の看護補助者の配置	25	→	1	2	3	1	2	3	4	5
26）病棟クラークの配置	26	→	1	2	3	1	2	3	4	5
３．他職種との業務分担等										
27）理学療法士との業務分担	27	→	1	2	3	1	2	3	4	5
28）作業療法士との業務負担	28	→	1	2	3	1	2	3	4	5
29）言語聴覚士との業務分担	29	→	1	2	3	1	2	3	4	5
30）臨床検査技師との業務分担	30	→	1	2	3	1	2	3	4	5
31）臨床工学技士との業務分担	31	→	1	2	3	1	2	3	4	5
32）ＭＳＷ又はＰＳＷとの業務分担	32	→	1	2	3	1	2	3	4	5
33）薬剤師の病棟配置	33	→	1	2	3	1	2	3	4	5

※入院基本料の施設基準の「院内感染防止対策に関する基準」「医療安全管理体制に関する基準」「褥瘡対策の基準」を満たすための委員会は除きます。

②上記①以外の取組で看護職員の負担軽減に効果のある取組があればご記入ください。

４．あなたの勤務する病棟での他職種との連携状況等についてお伺いします。

①あなたが勤務する病棟に**看護補助者**が配置されていますか。※○は１つだけ
01. 配置されている（→7 ページの質問①-1 へ）　02. 配置されていない（→7 ページの質問②へ）

①-1　**看護補助者**に対する教育体制とその運用状況としてあてはまる番号すべてに○をつけてください。

01. 教育プログラムが構築されている

→実施方法・実施時期　※あてはまる番号すべてに○

方法：01. 院内の集合研修（合計　　時間）　02. OJT　03. その他（　　）

時期：01. 入職時に実施　02. 決まった時期に定期的に実施　03. その他（　　）

02. 教育を担当する人材が確保されている　03. 教育体制の評価、見直しが行われている

04. 特に教育体制は整備されていない　05. その他（　　）

①-2　**看護補助者**の教育に関する課題としてあてはまる番号すべてに○をつけてください。

01. 教育プログラムの構築が困難　02. 教育を担当する人材の確保が困難

03. 業務多忙等により、研修時間を確保できない　04. 知識・技術の習得に時間を要する

05. その他（　　）　06. 課題は特にない

①-3 以下の業務について貴病棟の状況をそれぞれご回答ください。

【選択肢】
1 ：負担が非常に小さい
2 ：負担が小さい
3 ：どちらともいえない
4 ：負担が大きい
5 ：負担が非常に大きい
9 ：実施していない

	（1）業務負担感	（2）看護補助者との業務分担状況（※最も近いもの１つに○）			（3）看護補助者が各業務を実施する場合（完全委譲・部分委譲・協働も含む）の看護職員の負担軽減上の効果（※最も近いもの１つに○）※既に看護補助者が実施している場合もお答えください。				
	該当番号を記入	看護補助者が主に担当	看護職員と看護補助者との協働	看護職員が主に担当	とても効果がある	効果がある	どちらともいえない	あまり効果がない	まったく効果がない
1）食事介助		1	2	3	1	2	3	4	5
2）配下膳		1	2	3	1	2	3	4	5
3）排泄介助		1	2	3	1	2	3	4	5
4）おむつ交換等		1	2	3	1	2	3	4	5
5）体位変換		1	2	3	1	2	3	4	5
6）移乗（車椅子、ベッド等）		1	2	3	1	2	3	4	5
7）寝具やリネンの交換、ベッド作成		1	2	3	1	2	3	4	5
8）清潔・整容（清拭、陰部洗浄、口腔の清拭等、入浴介助等）		1	2	3	1	2	3	4	5
9）患者の病棟外への送迎（検査、リハビリ等）		1	2	3	1	2	3	4	5
10）入院案内（オリエンテーション等）		1	2	3	1	2	3	4	5
11）日中の患者の ADL や行動の見守り・付添（認知症や高次機能障害等）		1	2	3	1	2	3	4	5
12）夜間の患者の ADL や行動の見守り・付添（認知症や高次機能障害等）		1	2	3	1	2	3	4	5
13）事務的業務[注13]		1	2	3	1	2	3	4	5
14）物品搬送		1	2	3	1	2	3	4	5
15）医療材料等の物品の補充、準備、点検		1	2	3	1	2	3	4	5
16）環境整備		1	2	3	1	2	3	4	5

注 13. 事務的業務：カルテ整理、書類の取扱い、検査処置伝票の取扱い、レントゲンフィルムの整理、案内電話対応、コンピュータ入力等。

①-4　看護補助者に業務を委譲（完全・部分）したことで、看護職員はどのような業務の時間を増やすことができましたか。※あてはまる番号すべてに○

01. 入院患者に対する観察頻度の増加　02. 看護計画作成・評価　03. 医療処置
04. カンファレンスの実施　05. 早期離床に関する支援
06. 生活リハビリテーション　07. 退院に向けた支援
08. 他職種との協働（計画作成・介入・評価）　09. 地域連携
10. 看護記録　11. ベッドサイドでのケア　12. 患者、家族とのコミュニケーション
13. その他（具体的に　　）

【すべての方にお伺いします】
②貴病棟には、**薬剤師が病棟配置**されていますか。　※○は１つだけ

01. 配置されている　02. 配置されていない（→質問③へ）

②-1　病棟薬剤師が担っている業務、薬剤師と連携して実施している業務は何ですか。※あてはまる番号すべてに○

01. 持参薬の管理　02. 効果・副作用等の確認
03. 薬剤師と共にカンファレンスや回診への参加　04. 患者等への薬剤に関する説明等の実施
05. 配薬　06. 薬剤のミキシング（抗がん剤を除く）
07. 抗がん剤のミキシング　08. 病棟配置薬の管理
09. 薬物療法（注射や輸液等の準備・実施・管理、薬剤の投与量の調整等）
10. 退院患者の薬剤指導
11. その他（具体的に　　）

②-2　病棟薬剤師の配置による効果としてあてはまる番号に○をつけてください。※あてはまる番号すべてに○

01. 看護職員の薬剤関連業務の負担が軽減した
02. 速やかに必要な情報を把握できるようになった
03. 薬剤関連のインシデントが減少した
04. 服薬支援がより適切に行われるようになった
05. 病棟職員の薬物療法・服薬指導に対する理解・スキルが向上した
06. 患者の直接ケア時間が増えた
07. 効果が実感できない
08. その他（具体的に　　）

【すべての方にお伺いします】
③貴病棟における、歯科医師・歯科衛生士との連携状況はどのようになっていますか。　※あてはまる番号すべてに○

01. 歯科医師・歯科衛生士と共にカンファレンスや回診への参加
02. 入院患者への口腔ケアの実施
03. 退院に向けた患者・家族に対する口腔ケアに関する指導の実施
04. その他（具体的に　　）
05. 連携していない（→８ページの質問５．①へ）

８ページの質問③-1 へ

【上記③で 01～04 を回答した方にお伺いします】
③-1　歯科医師・歯科衛生士との連携による効果としてあてはまる番号に○をつけてください。
※あてはまる番号すべてに○

01. 口腔清掃等の方法に対する理解が向上した（知識を得ることができた）
02. 周術期口腔機能管理に対する理解が向上した
03. 摂食嚥下リハビリテーションに対する理解が向上した
04. 食形態の検討に役立った
05. 口腔状態のアセスメントをより適切に行うことができるようになった
06. 患者の個別の状態にあわせ、より適切な口腔清掃を行うことができるようになった
07. 患者の個別の状態にあわせ、より適切な摂食嚥下リハビリテーションを行うことができるようになった
08. 患者の個別の状態にあわせ、より適切な食事介助を行うことができるようになった
09. 特に効果が実感できない
10. その他（具体的に　　）

5．看護職員の負担軽減策に関するご意見についてお伺いします。

①貴病棟における、看護職員の負担軽減に関する現在の取組についてどのように評価していますか。※○は１つだけ

01. 十分である
02. どちらかといえば十分である
03. どちらかといえば不十分である
04. 不十分である

②今後、どのような取組をすれば、看護職員の業務負担の軽減が図られると思いますか。※あてはまる番号すべてに○

01. 臨床検査技師による採血・検体採取介助
02. 臨床検査技師による検査前後の説明や結果の管理等
03. リハビリ職による食事介助
04. 歯科専門職による専門的な口腔ケア
05. 介護福祉士による日常生活援助・見守り
06. 多職種間による記録の一元化
07. 記録の簡素化
08. その他（具体的に　　）

③貴病棟における看護職員の勤務状況や負担軽減に関する今後の課題等があればご記入ください。

質問は以上です。ご協力いただきましてありがとうございました。

ID	

（薬剤部責任者票）

平成 28 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 28 年度調査）

夜間の看護要員配置における要件等の見直しの影響及び医療従事者の負担軽減にも資するチーム医療の実施状況調査　薬剤部責任者票（案）

●特に指定がある場合を除いて、平成 28 年 10 月 31 日現在の状況についてお答えください。
●数値を記入する設問で、該当するものがない場合は「0」（ゼロ）をご記入ください。

1．貴施設の概要等についてお伺いします。

①貴施設における、平成 27 年 10 月、平成 28 年 10 月 1 か月間の**処方せん枚数**をご記入ください

	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
1）外来の院外処方せん	枚	枚
2）外来の院内処方せん	枚	枚
3）入院患者の処方せん	枚	枚

②インシデント数（平成 27 年 10 月、平成 28 年 10 月の 1 か月間）の件数をご記入ください。

	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
1）貴施設におけるレベル２[注1]以上のインシデント数	件	件
2）上記 1）のうち、薬剤に関するインシデント数	件	件
3）上記 2）のうち、療養病棟・精神病棟のインシデント数	件	件
4）上記 2）のうち、集中治療室等[注2]のインシデント数	件	件

注 1.　レベル２：国立大学附属病院医療安全管理協議会の影響レベルを指します。
注 2.　集中治療室等：救命救急入院料、特定集中治療室管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料、小児特定集中治療室管理料、新生児特定集中治療室管理料又は総合周産期特定集中治療室管理料を算定する治療室を指します。

③貴施設における 1）病棟数、2）薬剤師が配置されている病棟数についてご記入ください。
※病棟薬剤業務実施加算を算定していない場合もすべて含めて記入してください。

	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
1）貴施設における全病棟数	病棟	病棟
2）上記 1）のうち、病棟専任の薬剤師が配置されている病棟数	病棟	病棟
3）療養病棟・精神病棟の病棟数	病棟	病棟
4）上記 3）のうち、病棟専任の薬剤師が配置されている病棟数	病棟	病棟
5）集中治療室等[注2]の病棟数	病棟	病棟
6）上記 5）のうち、病棟専任の薬剤師が配置されている病棟数	病棟	病棟

④各病棟に配置されている薬剤師数（常勤換算）[注3]は何人ですか。

	平成 27 年 10 月	平成 28 年 10 月
1）病棟専任の薬剤師数	人	人
2）上記 1）のうち、療養病棟・精神病棟に配置されている薬剤師数	人	人
3）上記 1）のうち、集中治療室等[注2]に配置されている薬剤師数	人	人

注 3.　非常勤職員の常勤換算の計算方法：貴施設の 1 週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数点第 1 位までご記入ください。常勤職員は実人数のままで結構です。
例：1 週間の所定勤務時間が 40 時間の病院で、週 4 日（各日 5 時間）勤務の非常勤職員が 1 人いる場合
非常勤職員数（常勤換算）＝（5 時間×4 日×1 人）÷40 時間（週所定労働時間）=0.5 人

2．薬剤師の各業務の実施状況等についてお伺いします。

①貴施設では、平成 28 年 4 月以降、新たに薬剤師を配置した病棟がありますか。※○は 1 つだけ

1. ある　　2. ない（→質問②へ）

【上記①で「1. ある」と回答した施設の方】
①-1　それはどこの病棟ですか。　※あてはまる番号すべてに○

1. 一般病棟　　2. 集中治療室等[注2]　　3. 療養病棟
4. 精神病棟　　5. その他（具体的に　　）

注 2. 集中治療室等：救命救急入院料、特定集中治療室管理料、脳卒中ケアユニット入院医療管理料、小児特定集中治療室管理料、新生児特定集中治療室管理料又は総合周産期特定集中治療室管理料を算定する治療室を指します。

【上記①で「1. ある」と回答した施設の方】
①-2　そのためにどのような対応を行いましたか。※あてはまる番号すべてに○

1. 特に何もしていない　　2. 常勤薬剤師を増員した
3. 非常勤薬剤師を増員した　　4. 薬剤部門の人員配置・勤務体制の見直しを行った
5. 医師との業務分担を見直した　　6. 看護職員との業務分担の見直しを行った
7. ＩＴやシステム等（業務日誌や入力テンプレート等）の活用や環境整備を行った
8. その他（具体的に　　）

【上記①で「1. ある」と回答した施設の方】
①-3　病棟に薬剤師を配置する前と比較してどのように変わりましたか。※○はそれぞれ 1 つずつ

	とても増えた	増えた	変化はない	減った	とても減った
1）薬剤師の病棟内のカンファレンス・回診への参加回数	1	2	3	4	5
2）医師から薬剤師への相談回数	1	2	3	4	5
3）看護職員から薬剤師への相談回数	1	2	3	4	5
4）薬剤師による処方提案の件数	1	2	3	4	5
5）薬剤師による処方提案に基づく変更（投薬中止を含む）の件数	1	2	3	4	5
6）薬剤師による臨床検査（肝・腎機能、電解質・血中薬物濃度モニタリングなど）の提案の件数	1	2	3	4	5
7）薬剤師の関与による副作用・相互作用等回避の件数	1	2	3	4	5

【すべての施設の方にお伺いします。】
②貴施設では、**病棟薬剤業務実施加算 1** の施設基準の届出をしていますか。※○は 1 つだけ

1. 届出をしている（→3 ページの質問②-2 へ）
2. 届出をしていない

【上記②で「2. 届出をしていない」と回答した施設の方】
②-1　**病棟薬剤業務実施加算 1** の施設基準の届出をしていないのはなぜですか。※あてはまる番号すべてに○

1. 薬剤師の人数が不足しているため
2. 病棟以外（調剤・製剤、外来化学療法、手術室など）の業務負担が大きいため
3. 病棟専任薬剤師による病棟業務の実施時間が週２０時間に満たないため
4. 薬剤管理指導以外の病棟薬剤業務のニーズが少ないため
5. その他（具体的に　　）

（→病棟薬剤業務実施加算 1 の届出のない施設の方はこの質問で終わりです）

【上記②で「1. 届出をしている」と回答した施設の方】
②-2 貴施設では**療養病棟・精神病棟**で病棟薬剤業務を実施していますか。※○は１つだけ

1. 実施している病棟がある
2. 実施していない（当該病棟がない場合も含む）（→質問②-3 へ）

【上記②-2 で「1. 実施している病棟がある」と回答した施設の方】
②-2-1 貴施設では、９週目以降も療養病棟・精神病棟で病棟薬剤業務を実施していますか。※○は１つだけ

1. 実施している　　2. 実施していない（→質問②-3 へ）

【上記②-2-1 で「1. 実施している」と回答した施設の方】
②-2-1-1 ９週目以降も療養病棟・精神病棟で病棟薬剤業務が必要と思いますか。※○は１つだけ

1. 必要と思う　　2. 薬剤によっては必要と思う
3. 医師の依頼（同意）がある場合のみでよいと思う　　4. 必要ないと思う
5. その他（具体的に　　）

【上記②-2-1 で「1. 実施している」と回答した施設の方】
②-2-1-2 ９週目以降に病棟薬剤業務を実施することでどのような効果がありましたか。
※あてはまる番号すべてに○

1. 患者の薬に関する理解とアドヒアランスが向上した
2. 医師の業務負担が軽減した
3. 看護職員の業務負担が軽減した
4. 薬剤関連のインシデントが減少した
5. 薬剤種類数が減少した
6. 医薬品費が減少した（後発医薬品の使用促進を含む）
7. 副作用の回避・軽減や病状の安定化が速やかに得られるようになった
8. 在院日数が減少した
9. 外来通院や在宅での薬物治療に移行できる割合が高まった
10. その他（具体的に　　）

【上記②で「1. 届出をしている」と回答した施設の方】
②-3 貴施設では、**病棟薬剤業務実施加算 2** の施設基準の届出をしていますか。※○は１つだけ

1. 届出をしている　　2. 届出をしていない（→4 ページの質問②-3-3 へ）

【上記②-3 で「1. 届出をしている」と回答した施設の方】
②-3-1 **病棟薬剤業務実施加算 2** として、どこに薬剤師を配置していますか。※あてはまる番号すべてに○

1. 救命救急入院料　　2. 特定集中治療室管理料
3. 脳卒中ケアユニット入院医療管理料　　4. 小児特定集中治療室管理料
5. 新生児特定集中治療室管理料　　6. 総合周産期特定集中治療室管理料

【上記②-3 で「1. 届出をしている」と回答した施設の方】
②-3-2 **病棟薬剤業務実施加算 2** を実施する体制をとることでどのような効果がありましたか。
※あてはまる番号すべてに○

1. 集中治療室等から一般病棟等への薬に係る連携・移行がスムーズになった
2. 医師・看護師の業務負担が軽減した
3. 副作用の回避・軽減や、病状の安定化に寄与した
4. 薬剤関連のインシデントが減少した
5. 処方提案の件数が増加した
6. その他（具体的に　　）

【上記②-3 で「2. 届出をしていない」と回答した施設の方】

②-3-3　**病棟薬剤業務実施加算 2** の施設基準の届出をしていないのはなぜですか。※あてはまる番号すべてに○

1. 算定対象病棟がないため
2. 薬剤師の人数が不足しているため
3. 病棟以外（調剤・製剤、外来化学療法、手術室など）の業務負担が大きいため
4. 病棟専任薬剤師による病棟業務の実施時間が週２０時間に満たないため
5. 薬剤管理指導以外の病棟薬剤業務のニーズが少ないため
6. その他（具体的に　　）

質問は以上です。ご協力いただきましてありがとうございました。